

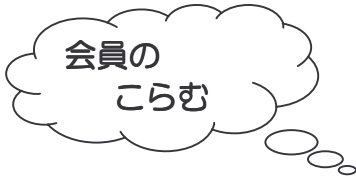


# 青年委員会だより



平成 17 年 7 月 1 日 (第 65 号)

(社) 青森県建築士会青森支部青年委員会



会員の  
こらむ

## ハイハイに学ぶ

私は今月で青森市に来て丸二年になる、その間に子供が生まれたこともあり、昨年築ウン十年のボロ屋を購入し、アパート住まいから持ち家となった。内装関係の仕事をしているので、セルフリフォームを行いなんとか人が住める程度にはなったが、今年の冬は雪でつぶれないかとマジで肝を冷す毎日だった、、、。雪解けとともに泣いてばかりだった赤ん坊がハイハイを始め、今はヨチヨチと歩いている。身長 180 以上の私は息子の相手をする時は自分もハイハイか歩伏前進状態にならざるを得ないのだが、その時に普段はなんでもない段差が気になったり、テーブルの下や棚の下には頭をぶつける角があったりと今まで見えなかった(気にしなかった)いろいろなことを発見し、今の家では子供には住みづらい部分がたくさんあるな〜と感じ、最初のリフォームの時にもう少し子供のことも考えるんだと反省している。そんな訳で私はもうすぐ一歳になる息子に「目線を下げる」ことの大切さを改めて思い知らされた。

これは物理的に視点位置を低くして見てみることもそうだが、私がここで言いたいのは設計をするときなどは創造主としての自分の立場を捨て一度は住む人・使う人(ほとんどの場合は建築的には素人の一般の人々であると思う)の立場に自分をおいて考えてみる必要があるということだ。そんなことは当然だと言われる方がほとんどだと思うが、(私の経験上)設計者には意匠的なこだわりや哲学的意識を持ち「これが良いんだ!」とか「これがカッコいいんだ!」、「この建物はこう使うんだ!」みたいな自己の価値観を押し売りするような人も少なくない(現在私が働く現場などはその典型である(笑)、どこかは言わないが、、、)勘違いのないようにしておくが、決して私はこういう設計思想は否定しないし、むしろ設計者には必要なことだと考えている、他人のものであると同時に設計者にとっても大事な作品である限りそこに自己満足を求めるのは当然だと思うが、度が過ぎたり、建築的知識のない素人(図面を見てわからないシノーとも言えない人がほとんど)をまったく省みないようなことはよろしくない。特に学校や介護老人施設など設計者

と利用者(この場合大人と子供・健常者と要介護者)の実生活における行動や価値観、物事の優先順位が大きく異なることが多い場合には注意していただきたい。たまには「ハイハイ」して図面や現場を見上げてみましょう。

余談：Sさん結婚おめでとう、W(ダブル)Iさん赤ちゃんの高速ハイハイをあなどるなかれ  
(内装職人)

## ☆☆☆青年委員会だより編集係から☆☆☆

### イベント等記事を広く募集

会員の技術の研鑽・相互理解を目的とします。会員及び協力会員のイベントやお知らせ等を紹介していきたいので情報がありましたら支部事務局までドシドシご連絡ください。できればEメールがうれしいです。×切りは大体毎月25日位でお願いします。(紙面の関係で重要部分のみ掲載する場合があります。)

## シリーズ

### ピョンテクへの道 - その5 -

夏になってしまいました。出発の秋が近づいて来る〜。今月は挨拶。エイもう、カタカナで覚えてしましましょう!ハイ、この3つ、

☆こんにちは!・・・アンニョンハセヨ

☆ありがとう。・・・カムサハムニダ

☆どうぞ、お願いします・・・

チャル プタカムニダ

来月あたりから、『韓国建築』の予習をちょこっとしてみたいと思います。そこで、参考になるような書籍をお持ちの方、もしよろしければ貸していただけませんか、お願いします!!

## 7月定例会はお休みです

青森支部事務局 TEL:017-773-2878

FAX:017-723-7105

E-Mail: receipt@aaba.gr.jp



青森支部ホームページ

<http://www.aaba.gr.jp/>